

テーマ I 回顧：日中民間交流の歴史

友好往来を促進し、交流を深めよう

中国教科文衛体工会弁公室主任 周 利民



中国教科文衛体工会と日本教職員労働組合（「日教組」）は長い間、友好往来を保っている。両組織間の友情が絶えず深まり、中日面国の民間友好往来を促進するために積極的な役割を果たしてきた。

現在、中日面国の教育工会は主に以下の面をめぐって、交流と協力を展開している。

- 1、代表団を相互派遣し、友好訪問を行っている。
- 2、歴史問題と教育問題を中心に交流と協力を展開している。
- 3、学校での教育について交流と協力をを行っている。
- 4、互いに支え合い、共に自然災害の挑戦に臨んでいる。

歴史を顧みることはより良く未来を切り開くためである。今年は中日平和友好条約締結 40 周年であり、中日関係は新たな節目を迎えている。新しい情勢の下で、中日面国関係の健全的な発展に貢献するために、中日面国の教育工会は如何に交流と協力を展開すれば良いのか、これは考えなくてはならない課題である。両国の先輩達が築き上げてきた基礎を土台に、中国教科文衛体工会は、日教組との友好往来を強化し、両国教育工会の定期相互訪問をしっかりと行い、交流の内容を絶えず充実させ、歴史教育の共同研究を進め、日本の教科書問題の適切な処理と中日関係の改善のために労働組合の民間外交としての重要な役割を果たしていきたいと思う。